

日本災害情報学会 25 周年記念 公開シンポジウム

新潟地震 60 年

新潟地震と現代的意味

日時

2024 11月9日 土 15:30-18:00
受付開始:15:00

お申込み先



場所

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター (2 階 メインホール B)

参加費

無料 (要申込)

1964 (昭和 39) 年 6 月 16 日に発生した新潟地震は、沿岸部への津波、市内での液状化、石油コンビナートでの火災などをもたらし、死者 26 名、全壊 1,960 棟などの甚大な被害をもたらした。近代化した日本の都市を襲った初めての大規模地震と言われている。また、この地震を踏まえて、地震保険制度が創設された。この地震について改めて学び、令和 6 年能登半島地震での液状化の発生などを含めた、新たな知見をふまえ、現代の地震災害と防災について考えることとする。

プログラム

開会挨拶 花角 英世 (新潟県知事)

趣旨説明 関谷 直也 (大会実行委員長、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授)

基調講演: 「新潟地震—60 年前の災害報道から見えるもの—」

入江 さやか (松本大学地域防災科学研究所 教授)

講演 1: 「新潟地震と復旧・復興」

吉田 律人 (公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜都市発展記念館 主任調査研究員)

講演 2: 「新潟地震と液状化」

卜部 厚志 (新潟大学災害・復興科学研究所 教授)

講演 3: 「地震保険の歴史的経緯」

流 友之 (一般社団法人日本損害保険協会 業務企画部長)

講演 4: 新潟地震 60 年報道 ～広域被害、次世代への視点～

井川 恭一 (新潟日報報道部)

閉会挨拶 岩田 孝仁 (日本災害情報学会長)

写真: 新潟地方気象台ホームページ「新潟地震から 60 年」特設サイトより引用

主
協
後

催: 日本災害情報学会

賛: 一般社団法人日本損害保険協会

援: 新潟県

北陸地方整備局

防災・減災 新潟プロジェクト 2024 実行委員会

新潟地方気象台

お問合せ先: 日本災害情報学会事務局

MAIL: tokio@jasdis.gr.jp

※メールでお願い致します

TEL: 03-3268-2400



日本災害情報学会 25 周年記念公開シンポジウム

■ 基調講演 登壇者プロフィール



入江 さやか (松本大学地域防災科学研究所 教授)

一橋大学社会学部卒業、東京大学学際情報学府修士課程修了(社会情報学)。読売新聞社、米・スタンフォード大学地震工学センターなどを経て2000年にNHK入局。報道局社会部、災害・気象センターなどで災害報道に携わり、2014年からは放送文化研究所で災害報道の調査研究を担当する。2022年4月より現職。

■ 講演 登壇者プロフィール



吉田 律人 (公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜都市発展記念館 主任調査研究員)

1980年新潟県生まれ。國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了、博士(歴史学)。2008年、横浜市ふるさと歴史財団専門職採用。横浜市史資料室調査研究員、横浜開港資料館調査研究員を経て2023年より現職。主な著書に『軍隊の対内的機能と関東大震災一明治・大正期の災害動向』(日本経済評論社、2016年)、共編著『関東大洪水一忘れられた1910年の大災害一』(日本経済評論社、2023年)など。特別展「関東大震災100年 大災害を生き抜いてー横浜市民の被災体験ー」(2023年)等担当。



ト部 厚志 (新潟大学災害・復興科学研究所 教授)

1994年学位取得。地質調査所、香川大学を経て、1998年新潟大学に着任。地震時の平野での地盤災害、伏在断層の活動履歴、津波堆積物などから、災害の予測と軽減の研究を行っている。この成果だけでなく、広く防災という観点から、防災に関する公開講座や子ども向けの防災イベントなど、積極的に防災教育の普及にも取り組んでいる。



流 友之 (一般社団法人日本損害保険協会 業務企画部長)

1995年日本損害保険協会入社。損害保険商品部門、損害保険会社出向(保険金支払部門)、経営企画部門等を歴任。現在、地震保険・自動車保険等の商品業務、防災・減災・事故防止、消費者啓発等を所管する業務企画部で事業推進。



井川 恭一 (新潟日報社報道部)

1974年、佐渡市(旧両津市)生まれ。大阪大学文学部を卒業後、1996年に新潟日報社入社。本社では新潟市政、新潟県政、紙面レイアウト部門などを担当。出先の報道拠点は、新井支局(現妙高市)、新発田支局、東京支社報道部を経験。長期企画として、トキの野生復帰を追った「朱鷺の国から」、「にいがた戦後75年」を担当。長岡支社報道部デスクを経て、2024年4月から本社報道部デスク総括。

■ 趣旨説明者プロフィール



関谷 直也 (大会実行委員長、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授)

1975年新潟生まれ。東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授(災害情報論、社会心理学)。博士(社会情報学)。東日本大震災・原子力災害伝承館上級研究員。福島大学食農学類客員教授を兼務。1998年慶應義塾大学総合政策学部卒業。2004年東京大学大学院人文社会系研究科社会情報専門分野博士課程満期退学。2020年東京大学総長補佐。2018年東京大学卓越研究員。主著に『災害情報』(東京大学出版会)『風評被害』(光文社)『「災害」の社会心理』等。

■ コーディネータープロフィール



佐藤 翔輔 (大会実行副委員長、東北大学災害科学国際研究所 准教授)

1982年新潟生まれ(東区出身)。長岡高等専攻科在学中に2004年の7.13水害と中越地震で被災。京都大学大学院情報学環博士課程後期修了。博士(情報学)。2011年3月から東北大学着任。2017年より現職。2021年に東北大学ディスティングイッシュトリサーチャーの称号を付与。新潟県内では「えちごせきかわ大したもん蛇まつり(関川村)」に関する研究に従事のほか、新潟市・令和6年能登半島地震災害初期対応検証広聴会・座長、新潟防災・減災アクション2024「こども防災マップコンテスト」審査員。著書に『災害伝承の大研究』(PHP出版)等。